

大野市小中学校再編計画（案）説明会開催結果概要

日 時 令和3年6月23日（水）午後7時00分～8時35分
場 所 上庄小学校 体育館
出席者 上庄小学校区住民・保護者 16名
教育長、教育委員会事務局長、教育総務課長、学校教育審議監
教育総務課職員3名

顛 末

①教育長あいさつ

②大野市小中学校再編計画（案）の説明（資料に基づき説明）

③質疑応答

参加者 中学校のスクールバスの利用は冬に限定して欲しい。冬でも保護者が通学の補助ができるように、バスを強制乗降という形にするのではなく、自由に選択できるバス乗降制度にしてほしい。保護者が送り迎えをするお子さんは乗らなくても良いという形にしてもらえるとありがたい。

市教委 スクールバスの利用については、保護者の方と実際に準備委員会の中でルートなども決めさせていただく。どのような方が乗るかといったことも相談させていただきながら、保護者の意向も踏まえて決めさせていただきたい。

参加者 スクールバスの件で、運行経路を決定するのは再編準備委員会などで相談して決めると思うが、中学校で部活がある場合は朝練に間に合うように出してもらえるのか。夕方は、部活をする子としない子で時間が違うので、朝夕に最低でも2便出してもらえるのか。土日に部活動があると思うが、その時も出してもらえるのか。運行経路の決定については、再編時の保護者の方で決定すると、決めた当時の生徒が卒業し、違うところからの子どもが通う時には経路を変えてもらえるのか、という点を教えて欲しい。

市教委 現在、働き方改革という点もあるが、子どもたちの体力・健康上の問題で、朝練をすることが健康上良くないとのことから、大野市では令和元年度から朝の練習をやめており、朝にバスを出すことはない。部活動の在り方も様々で部活動に入らない子、地域のスポーツクラブに参加することも考えられる。意見交換会でも登下校に対する不安があったので、きちんと話し合いを持って対応していきたい。

一番初めの準備委員会でバスのルートを決めても、次の年にはその地区に子どもがいなくなったり、新たな地区で入学したりということもあるため、バスのルートについては毎年検討している。富田小学校のスクールバスでも毎年保護者の要望に応じてルートを変えているため安心いただきたい

い。

参加者 部活動の朝練は大会前にやっていたと思うが、試合前でも大野市は朝練をしないのか。

市教委 令和元年度から部活動方針をつくり、基本的に朝練はしないでおきましようとし、それが現在は完全に守られている。土日の練習についてもどちらか1日は休養日にする事としている。地区大会などで土日続けて試合があるような時は、次の週は土日とも休みにする方針を決めており、大野市の中学校はその方針に従って部活動を行っている。

参加者 土日のスクールバスはどうなるのか。

市教委 土日については慎重に検討しなければいけないと思っている。現在は運行していない。というのも、部活動の開始時刻は部活動によって違い、学校の体育館を1日かけて皆で使用するため、午後1時からあるいは午後3時からという割り当てがある。その時に、土日にスクールバスをとということになると「どのように動かすと良いのか」ということが非常に難しい。そのため現在ではそういう対応を取っていないということである。

参加者 小学校の再編について聞きたい。現在9校から7校に再編するという事で、上庄小学校も1校として数えられている。7校に再編した場合はよいが、この後は2校か1校になるように読んだが、間違っているか。7校に再編で上庄小学校はこのまま残るということでよいか。

市教委 資料4ページ右側に7校に再編と書いてある。令和8年4月の再編の時には上庄小学校はこのまま残る。令和6年に中学校、令和8年に小学校の再編を行い、その次の段階の再編は、おおむね5年程度経過した段階で、また検討をさせていただく。その時の状況によって、小学校では昨年の再編検討委員会を立ち上げて検討していただいた「5校案」なども出ており、そのことも踏まえて、大野市全体で校数などは検討していくという案になっている。令和8年度より後において、小学校が何校になるか上庄小学校も残るかということは、その後の検討次第ということになる。

参加者 いつかは、上庄小学校もスクールバスに乗って通う可能性があるということか。

市教委 可能性としてはあるかもしれないが、今の時点では何とも申し上げられない。今は令和8年度に7校に再編するという案をお示しさせていただいている。その後は検討内容によって変わってくるかと思うが、そこははっきりと申し上げられるところではない。

参加者 令和8年度では、上庄小学校はあるということによいか。

市教委 そのとおりである。

参加者 昨年度の学校再編計画検討委員会の中で、小学校は市街地の2校と上

庄・富田・和泉小学校が残って5校、中学校は開成・陽明中学校が残って2校という案で話が進んでいたと思うが、その理解で良いか。

市教委 中学校は2校に、ということでご説明させていただいている。小学校については、あくまでも4ページに書いてある7校に再編をさせていただきたい。7校にした後のさらに5年後以降の次の再編検討の際には、今の中学校区である開成中学校区・陽明中学校区・上庄中学校区・尚徳中学校区・和泉中学校区に小学校を1校ずつという「5校案」が昨年度の再編検討委員会で意見の1つとして出されていた。その「5校案」も含めて市全体で小学校はどのような形が良いかということは今後検討していく再編計画案になっている。

参加者 小学校の5校案が残るということか。

市教委 それも含めて今後検討させていただきたいということである。

参加者 1年間、検討委員会で話されてきた5校案は消えてしまうのか。

市教委 消えるということではなく、その案も含めて今後検討させていただきたいということである。

参加者 検討委員会での結果の5校案を尊重していただき、5年後もその案を残していただきたい。1年間の話し合いの結果が無駄にならないように。

市教委 お気持ちはよく分かる。検討委員会の報告も、4ページにある計画案である。子どもたちの数や学校を取り巻く環境は毎年変わっていく。可能性として2段階目についても考えなくてはいけないという検討委員会での検討である。そこを教育委員会としてしっかりと受け止め、まず、小学校では特例措置である複式学級、中学校では上庄中学校も専門教諭がない点を早く解決するための今回の案である。そこをしっかりと納めて、子どもたちの状況、通学の様子をしっかりと見て、丁寧に次の段階の検討も始める。検討委員会でも5校案の意見が出ており、それを尊重しながら検討していくことになる。まずは、4ページの案を納めさせていただきたいということである。お気持ちは受け取らせていただく。

参加者 8ページをもとに、計画案がこのとおり進められると仮定して、地域とともに考える学校の再編の項目で、再編準備委員会を設立し協議を行うとある。乾側小学校の例が記載されているが、上庄小学校区で設立するとなった場合、構成の規模や話し合われる内容について教育委員会の案があれば紹介いただきたい。案がないのであれば、今後どのように地域での協議の場を設けるのか聞きたい。

市教委 再編準備委員会の構成は、地区の方との協議になると思う。乾側小学校の例を参考に、地区それぞれ特有の事情もあるかと思うので、このような人が入って欲しいという要望があれば、その方も入っていただき組織して

いければと思う。話し合っていた内容も基本的には記載のとおり、学用品の補助やスクールバスの運用、生徒の事前交流、PTAの統合、統合式典といった内容についてご審議いただくことになると思う。

参加者 中学校の再編時期が令和6年4月で予定どおりとなると、2年半後には上庄中学校に通う子どもたちがいなくなり、建物が残る。それをどう活用していくのか地元でしっかり考えていかなければいけないとなると、時間があるようでないと感じる。そこに関心があったため再編準備委員会について質問させていただいた。

参加者 8ページにある学校跡地、空き校舎の活用について、案がないかということがあったと思う。検討委員会のなりゆきも注目したいと思う。跡地の活用については大野市の総合計画にも関連があると思うが、上庄中学校の校庭を再編後にこのまましておく、草が生えたりし、公的利用の復活が難しくなると予想される。地域で検討いただきその案に基づきという事務局の案であり、地域でまず検討してくださいとのことであるが、地域で学校の校庭をどう活用するかということ、地域の個々で具体的に発展させるのは難しいと思う。市政として跡地利用について一つの項目として掲げていただき、検討していただければと思う。私は、大野市で専門の野球場があってもよいのではないかなと思う。パブリックコメントなどでも出させていただく予定であるが、令和6年度から無活用となるので、並行して跡地利用を検討していただければと思う。

市教委 上庄中学校は広い場所であり、今は学校の施設管理員が管理維持しているが、使われなくなった後のことについては心配なことであると思う。ただ、「今、市役所としてこうしますので」と地区の方々に投げかけることは乱暴であると思っている。地区に丸投げをするのではなく、みんなで活用策を考えていきたいということである。そうは言っても身の丈にあったことしかできない。資料の13ページを見ていただくと、上庄小学校が昭和58年、中学校が昭和62年にできており、中学校の方が新しい。新しい方が先に無くなってしまうという案であり、活用策については悩ましいところである。グラウンドはナイター設備があり土手もあるため野球場みたいになっており良いとも思うが、それも皆で話し合って決めることである。地区に運営してください、管理してくださいということではない。私たちの知恵だけでは足りないので、ご相談をさせていただき、良い道を探っていきたいと思うのでご理解いただきたい。

参加者 学校跡地の利用のことで、地域で活用を検討する時に、学校の維持管理費、例えばガスや電気などのインフラ設備の維持管理や燃料代については、市で出していただけるのか聞きたい。出していただけるのであれば、地区

の囲碁クラブなどの部屋として使うことも考えられるが、維持管理をしてもらえないと、地区のサークルなどで維持管理することははっきり言って無理である。「こういうこともしますよ」と言っていたら、その上で考えることは可能だと思うが、どのようになっているのか。

市教委 今のところ私たちの方で「こうしたいのでどうでしょう」という提案はない。出したところで、本当に皆さんに活用してもらえるかは、地区の皆さんと一緒に話し合った上で決めていかないと出来ないことだと思っている。サークルなどの場としては中学校の建物が大きすぎるということもあるし、公民館も活用していただきたいという気持ちもある。今のところ我々からこうしたいという話はない。

参加者 地区でこのように活用したい、となった時、インフラにかかる費用を負担してもらえるのか、そのような相談には乗ってもらえるのか、ということを知りたい。

市教委 そのような形で体制がしっかり構築できれば、地区に全て負担してもらうということはある得ない話であるので、指定管理などさまざまな管理の方法があるが、掛かる必要な経費を市が支払うことになると思う。

参加者 上庄校区でも既に、未就学児童や児童保護者への説明会が行われているとのことであるが、その説明会の中で、これから統合される時期のお子さんを持つ保護者たちの意見や感想、質問や受け止め方として好意的なのか、まだ待つて欲しいなどの意見があるのか、そういった雰囲気はどうであったか教えてほしい。

2点目として、スケジュールについて丁寧に説明いただき、令和4年度準備委員会が設立の予定、そこでの話し合いにもよると思うが、示された案が取れて5年度には交流し、6年度にはスタートというプランが、話し合いの内容によっては少し延びることもあるのか、見通しについて教えてほしい。大事なことなので拙速にするわけにもいかないが、3・4年前にこの話がでた時、私の同級生なども「やるのならもっと早くしてほしい」という意見もあった。上庄中学校で教養的な専門的な教師がいないとのことであれば、3年度に準備し、4年度に交流し、1年でも早くしてという意見の方もいると思う。その部分も含めての見通しをお聞きしたい。

市教委 1点目の未就学児の保護者の皆さんの雰囲気であるが、「次どうしよう」という話を中心であった。学用品をそろえるのか、そろえなくていいのか、補助はこれでいいのか、などである。繰り返しになるが「これからどうしよう」という点では、出来ることは学校同士でなるべく早めに擦り合わせていったほうが良いという印象を持った。ライブ配信や議事録も公開しているので、確認していただければありがたい。

計画の改訂については、先ほども説明させていただいたが、本年度中に「案」をとり、正式な計画にしていきたいと思う。それまでは、いただいた意見を、また検討委員会にも報告をして、そこで手続きを踏み、パブリックコメントなども行い正式な計画にしたいと思っている。令和4年度に準備委員会、5年度には生徒たちの交流をと考えているところである。2年間という期間は、早めに進めてほしいという意見もあれば、もう少し待ってほしいという意見もあるかもしれない。しかし、実際に乾側小学校の再編では、やはり「学校」対「学校」の再編であり「地域」対「地域」であるので、そう簡単なものではなく、丁寧に進めさせていただきたいと思っている。そのためにはこの2年は貴重な時間だと思っている。また、これ以上遅らせることも得策でないと思っている。この3年間で皆さんのご意見をお聞きし、検討委員会にも皆さんの意見を集約し積み上げてきたものである。そして考えに考えてこの時期を設定しているので、このような提案になっているということである。

参加者

スクールバスを運行しようと思うと、生徒への負担はなく、何本走らせるかは分からないが、それは全て市や教育委員会が負担することになると思っている。運行すると年間何百万円と経費がかかり、これからも再編すればするほどスクールバスが必要になり、その本数を今後何十年も維持することができるのか。大野市は大丈夫なのか心配になる。いずれそれが保護者への負担ということになるのであれば、今から考えなければいけないことだと思うが、その点は考えているのか。

また、5ページに将来の再編計画に向けて適正な学校規模ということがあるが、適正な学校規模とはどのようなことを指しているのか。1学級の人数を減らした方が良いと国でも言っている中、学校規模が少ない人数でやっても良いという方向性になるのではないか。そのような時に大野市が言う適正規模とはどのようなものを指しているのかを教えてください。

市教委

どの地区でもスクールバスの質問が一番多く、一番ご心配されていることと思う。ご質問にあった、将来に渡って維持していけるのかということだが、維持させていただく、としかお答えできない。経費がかさんでいくからといって、負担をお願いしたい、ということにはまずならない。現時点で、ここ何年かでそのようなことになることはあり得ない話である。費用は何百万円かもと言われたが、桁はもう一つ上に上がることになると思う。しかし、子どもたちの安全安心のため維持していかなければならないと思っている。

適正規模であるが、20人だとか30人だとかの数字では「これ」というものはない。この案自体が「学校数をどうしよう、人数をどうしよう」

というところから入っていない。大野市がどういう教育を目指してやりたいか、そこから入っている。あまり適正規模が何人かという議論はしていない。一つの考え方としては、地域によって適正は違うと思う。例えば、有終南小学校などの住民の人数が多いところは、1クラス30人が3・4クラスというのが適正な規模だと思う。ただ、小規模になる上庄小学校は、30人で3・4クラスが適正かというと思う。この地区この地区で適正というのは決まるのだろうと思う。そして、例えば小学校で今は1クラスずつだから、本当はクラス替えができる2学級以上の学校規模とすることが適正なのかもしれない。しかし、私たちは小学校の6年間だけでは考えていない。小学校6年間と中学校3年間の9年間の中で、小学校はなるべく地元の方で、その代わり中学校になったらもう少し広いところの3クラス4クラスで思いっきりやってもらおうと、そのように9年間を見越している。今の適正というものが大野市としてどうなのかという答えは、地域によって違う、状況によって違うと思う。

参加者
市教委

再編準備委員会はいつ頃立ち上げるのか。

今年計画(案)を計画にさせていただいたら、なるべく早くと思っている。ただし、まずは中学校を先に進めていかなければいけないため、小学校については、中学校の統合が終わった時の令和6年度になる。ただ、準備委員会をその年に立ち上げるにしても、学用品や体操服についていろいろ合意して進められるものに関しては、なるべく早く学校間やPTA間で相談することはできるのではないかと、そういった話はしていきたい。

参加者

8ページに環境への変化ということで、開成中学校の生徒と事前交流を行いと書いてあるが、子どもが統合する年度に6年生になるが、いきなり大きな中学校に行くという不安がある。小学生同士の児童の交流などの取り組みがあるのか聞きたい。

市教委

他の説明会でも同じ不安を持っている保護者の方もいた。今後の見通しというところで、2年間かけて準備をしたい。その中には中学校の交流も必要であるが、中学校に上がる小学生同士の交流も必要である。開成中学校に上がる有終南小学校・小山小学校・上庄小学校の高学年の子どもたち同士の横のつながりも大事にしていきたいと考えている。準備委員会の中でその点についても保護者の方と協議しながら、子どもたちが不安にならないように準備を進めていきたい。

参加者

クラスの配置の人数については、上庄小学校の子が均等になるのか、少し多めに仲間が多いクラスにするような配慮があるのか。環境変化の対応について慣れ親しんだ教員に相談しやすいような配慮なども書かれているので気になった。

公民館機能の強化と地域の連携でふるさとのことが打ち出されている。上庄地区の子どもが開成中学校に通い、上庄中学校の生徒はいなくなるが、その子たちに「上庄地区の行事においでよ」となるのだが、上庄地区の子にこだわることなく、「開成中学校の子も来てもいいよ」、「大野地区の行事に上庄地区の子も行ってもいいよ」という自由に行ったり来たりの地域活動ができるといいなと思った。

市教委

学校と子どもたちとも相談であるが、2・3人ずつ、5・6人ずつと固まって入れることが基本であると思う。私も50年前に再編の渦中におり、中学校3年生の時には小山中学校から開成中学校に入った。その時の心細さや楽しかった気持ちは胸の中に刻んである。保護者の方の心配や子どもたちの不安と期待もしっかり考えて入りやすいようにしたいと思う。ただ、心配しなければいけないが、心配しすぎなくてよいと思う。子どもたちには力がある。新しい友達や新しい教員と上手くやっていく力がある。それをサポートして背中を押してあげた方がよいと思う。その点しっかりさせていただく。保護者の意見としてPTAなどでも相談していただき学校と共通理解を持って進めていきたい。

地区の敬老会や麻那姫感謝祭のとき、上庄中学校のジュニアリーダーの子どもたちが本当に献身的に働く姿をみて素晴らしいと感じていた。学校が無くなっても上庄の子どもたちである。中学生が地区の行事に入って活躍していく姿は、地域コミュニティの中でやっていく必要があると思う。ただ、この行事に参加するジュニアリーダーが上庄地区の子たちだけでなく開成中学校にいるほかの地区の子も一緒にやってみようじゃないか、上庄の夏祭りってすごいねと感じる、そういうことが期待できるのではないかと思う。統合によって地区が広くなり子どもたちも新しい地区の新たな学びができるのではないかと期待もしている。ぜひそのような形を作り上げていきたいと思う。

参加者

部活のことについて、12ページに記載されているすべての部活を維持していく予定なのか。

市教委

部活については、部活動が地域のスポーツクラブに少しずつ移行しても良いのではないかという考え方がある。国としてもそういった考え方があり県もそのようなモデルの地域を入れながらやっている。今あるクラブを維持するというのではなく、クラブも考え方の過渡期にあると思う。ただ、生徒にとって部活動は興味関心があるところであり、部活動が楽しみで学校に行くという生徒もいる。部活動の在り方について検討しながら、各学校も生徒と十分に話し合いをしながらやっていくといいのではと思う。例えば習い事で、部活動には無いので柔道教室に通っていることも部活動

として認めながらやっていくことも必要になってくる。部活動については統合のことだけでなく、いろんな在り方について今後検討が必要になってくると思っている。

参加者 現在でも中学生が協会や連盟などに参加し、それが部活動として認められているという状況は聞いている。部活動の学校単位での意義もあると思うが、社会教育活動に移行していくことがいいのではないかという気がする。意見はさまざまあり検討するとのことであるが、できるならば学校から切り離す活動に持っていったとしても、将来的にはそうなるのではないかという気もするし、そうしていただきたいと思う。教員の負担軽減なども言われているので、検討していただきたい。

市教委 そういった方向についても十分検討していきたい。

④閉会のあいさつ（事務局長）